

総会・研究発表会報告

(改定案)

第 6 条 ②正会員は東京都において高等学校の数学教育に従事する学校職員

→従事あるいは関係する職員

第 11 条 本会に次の役員を置く。 副会長 3 名 監事 2 名

→副会長 3 名程度、監事 2 名以上

(改定理由)

第 6 条については、会員が中学校教員、非常勤教員、都庁関係者が増えている。

第 11 条については、現状に合わせて、弾力化する。



以上、全ての改定案は承認された。

総会終了後、定通分科会と学習指導法分科会から 3 本の研究発表を行った。

数学A 確率 事象と確率 学習指導

—確率に興味・関心をもたせることを目的とした授業実践—
(定通分科会)

発表者：東京都立南葛飾高等学校
教諭 田村 仁

「確率」の導入にあたって、苦手意識を持たずに、かつ主体的に取り組めるように生徒たちにサイコロを 100 回投げさせ、それを記録し、グラフ化して考察するという授業展開を行った。今回はその実践報告である。教科書を用いた一斉授業による指導だけではなく、生徒の興味や関心を引き出せるような実用的な教材作りを行い、より一層興味を持てるように授業を展開していきたいとのことであった。



2次曲線の定義・性質に着目した教材開発・教材解釈 (学習指導法分科会①)

発表者：東京都立八王子東高等学校
主任教諭 平井 恒

「2次曲線の定義・性質に着目した教材開発・教材解釈」と題し、高校数学における発展的(図形)教材の開発の発表を行った。その中で「ボロノイ図」に着目し、距離の考え方を変えたときの応用例などの紹介を行った。また、大学入試問題において見方を変えると2次曲線の考え方に帰着でき、図形的に処理できることを生徒たちに気付かせること、よりその単元の理解も深まり、生徒の興味関心を引き出すことができるのではないか、とのことであった。



小テストによる指導と生徒の変容 (学習指導法分科会②)

発表者：東京都立西高等学校
主任教諭 村形 政信

「小テストによる指導と生徒の変容」と題し、毎回小テストを行うクラス、たまに小テストを行うクラス、小テストを行わないクラスと1学年3クラスを対象に比較を行った。すると、定期テストの結果にも明らかな結果が見られ、特に基礎問題の定着や応用問題を解けた人数に大きな差が出た。また、小テストを行うことによって答案記述力の養成ができ、教員側が予想していなかった生徒の誤りを発見できるなどのたくさんのメリットがあり、毎回小テストを行っているクラスでは「小テストを今後もやってほしい」と思っている生徒の人数が一番多いという結果も得られた。

